

第8回 建設・産業小委員会（議事概要）

日 時 平成14年11月6日（水） PM1：30～PM3：56

場 所 JA久美浜支店

出席数 14人

傍聴者数 3人

主な議題

- (1) 協議第1号 19 - 24 建設関係事業の取扱い（その5）
- (2) 協議第2号 19 - 28 農林水産事業の取扱い（その6）
- (3) 協議第3号 19 - 29 商工観光事業の取扱い（その4）
- (4) 新市建設計画の具体化等について
- (5) 次回の議題について
 - ・協定項目の協議について
- (6) 次回の小委員会の予定について

議事経緯

委員長あいさつ

会議の成立確認

議事

- (1) 協議第1号 19 - 24 建設関係事業の取扱い（その5）・・・確認

主な意見

委 員 譲与事務とは何か。また電柱の敷地料の関係はどうなっているのか。

部会長 国名義の里道、水路を、各自治体で平成17年3月までに一括して受けることになっておりその準備を進めているが、丹後は合併問題があり平成15年12月までにすべての申請を終え、平成16年4月1日から新市で譲与を受けていく方向である。里道の電柱等の法定外公共物については、町道と同様の扱いとする。

委 員 譲与された里道は、市道等に格上げになるのか。

部会長 市道等については、要件に基づき議会において認定される。

委 員 すべての里道が町のものになるのか。公共の道として機能しない、特定の個人しか使えない道は払い下げとか考えるのか。

部会長 里道・水路については、山の中とか家の下など、どこに存在するのか把握しにくい。公図上の里道・水路についてはすべて譲与を受けるつもりである。払い下げるかどうかは、地元の状況などを考え今後判断していかねばならないと考える。

委 員 道路占用料については新市になり具体的にどうなるのか。また海岸管理については網野町では条例があるが、丹後町でやっている建設省関係の海岸保全というものは網野町のようにできるのか。

部会長 占用料については、第1種電柱の770円が1,000円、第2種電柱の1,200円が1,600円など少しずつ上がる。海岸保全については、市が海岸管理の申請をすれば可能だし、区域を広げたり新たに設定することもできる。

(2) 協議第2号 19-28 農林水産事業の取扱い(その6)・・・確認

主な意見

委員 区画整理事業に伴う、用排水路の施設管理を行う土地改良区について、設立から50年を経過するようなものもあり整理ができないか。また新市との関係はどうか。

部会長 網野町の郷土地改良区以外は経常・特別賦課金を徴収して施設管理を行っているが、解散して財産処分をできるかどうかということが問題となる。また町から市になっても、土地改良区との関係は変わらない。

(3) 協議第3号 19-29 商工観光事業の取扱い(その4)・・・確認

主な意見

委員 現在、6町の商工会はどのような動きをしているのか。また商工会への町の補助金は、府補助金の2分の1以内となっているが各町様々であり、商工会に対する温度差があると思うが部会としての意見はどうか。

部会長 商工会との会議の中で、府や全国的な動きを勉強したが、昭和60年以降の市町村合併で商工会が合併したのは2例しかない。商工会の合併は、団体のあくまでも自主的、主体的な決断で考えられるものである。補助金について、例えば網野町では商工会の決算額に占める国・府・町の補助金の割合は多くなっている。補助金に依存している団体だが、各地域の小規模事業者の経営支援・相談の窓口としてなくてはならないものになっている。国・府の補助金を申請する場合、小規模事業者の組織率が50%必要となっているが、行政が強制的な調整を行うものではない。

委員 事務的調整ではなく、行政組織も商工と観光を分けて考えることはできないか。

部会長 行政の組織機構については別の小委員会に提案されると思う。

委員 篠山市でもまだ合併していないが、丹後6町が新市になる場合、補助金は一定の統一基準となるのか。また合併した場合商工会議所になるのか。

部会長 6町が合併しても、6つある商工会に対する国・府の補助金は現状どおりと思われるが、新市としての補助金は今後協議はしていきたい。商工会は組織率50%、商工会議所は38%だが、商工会議所は事業税・鉱山税を一定額納めている特定事業者が80%いなくてはならない。会費については、商工会議所では会費収入が年間5,800万円いるが、丹後6町の商工会の会費合計額は4,600万円であり、さらに特定事業者は会費のほかに負担金を納めなければならない。一概

に市になったからといって商工会議所というのはむずかしい。

委員 商工会は合併した方がよいのか、それとも現状がよいのか。

部会長 合併特例法では、市町村合併に伴い公共的団体は統合整備に努めなければならないとなっている。

(4) 新市建設計画の具体化等について

主な意見

委員 生産拠点が発展途上国に移っている現状では、国際的に製造業が苦しくなっている。欧州では第3次産業に力を入れ、商工観光から観光省ということで観光が独立する流れとなっている。こうしたことから、新市建設計画の中でも商工と観光を分けるなど、観光を特別に取り上げてはどうか。

委員 丹後に一番近い兵庫県の但馬空港から、東京などへの直行便ができるともっと交流が盛んになるのではと考える。

委員 地場産業をどうするかと考えた場合、産業別にミニ工業団地的なものを作って市街地にある工場を移し、騒音等問題を解決して生産量を上げるなど考えてはどうか。

委員 工業団地などは山へ追いやらず、市の中心に持って行って成功した例もあり、発想の転換、目玉作りが必要と考える。

委員 観光を目玉とする新市建設計画を作ってほしい。

委員 高規格道路の実現と、本庁と支所、また支所から支所への道路整備を考えてほしい。

委員 宮津線の電化と、京都市内や大阪などへ行くのに便利なダイヤ改正、またそれに合わせたバスの運行など、合併を機に考えてほしい。

委員 積雪など、いつまでも自然に左右されるような丹後ではだめ。雪を楽しむ、雪にめげないため、除雪については弥栄町を見習うというようなことが新市建設計画にあってもよい。

委員 地元産品はかさばったり重かったりするのので、丹後で採れるものを加工する大きな施設を考え、独自の土産物の製造販売を考えてほしい。

委員 農業生産法人で加工品をやっているが、健康食品・無農薬食品などとして結構引き合いがある。しかし生産的に小規模であり、大型プロジェクトを考えていかねばならない。

委員 新市建設計画には「若者」という文言が出てこない。新市に魅力を感じてもらう意味でも、計画のプロジェクトの中に生産力人口となる青年層を対象とした「若者支援プログラム」を作ってほしい。

委員 現在各町が所有する施設は、独立採算を考え金のかからない方法を考えてほしい。

委員 合併では、思い切って処分するところは処分して、次代に負担を残さないことを計画に盛り込んでほしい。また商工会や観光協会でも何でも一つにする方向で取り組んでほしい。新しい時代のニーズに対応するためには経費がかかるが、住民

サービスの向上につながるのなら、そうした積極的な部分を新市建設計画に盛り込んでほしい。

(5) 次回の議題について
協定項目の協議について

(6) 次回の小委員会の日程
第9回建設産業小委員会
日 時 12月11日(水) 午前9時30分から
場 所 あみの図書館

文責 峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町合併協議会事務局
(速報のため、事後修正の可能性あり)